



シーカヤックでは、塩の浜の海を解説した

一般社団法人 隠岐ジオパークツアーデスク

日本海沿岸の隠岐諸島地域における 海岸漂着物清掃を行う 次世代に向けた地域人材グループの育成

入門助成

1年目

実践

学習イベントの案内チラシを作成し、周辺地域の小中学校や住民に配布し参加を呼びかける。

280人

島内全7,100世帯に配布される月刊の広報誌にてイベントの活動状況を報告する。

7,100世帯

活動の全体目標に対する達成度

80%

課題

塩の浜は隠岐諸島で最大の砂浜であるが、海岸漂着物が目立つ場所でもあり、近年は地域住民による砂浜の利用がほとんど見られない。

目標

塩の浜は隠岐諸島の優れた自然資源であり、国立公園やジオパークについて学び楽しむ人が集まる場所に変えたいと考えた。そのためには、問題の根源となっている海岸漂着物を取り除く活動を実施する必要がある。

活動内容

活動内容として、主に「海岸漂着物の清掃活動」、「周辺の生き物や自然環境についての勉強会」、「砂浜でのシーカヤック体験」の三つの内容に取り組んだ。清掃活動は、「砂浜を人が利用する上での環境美化活動」であり、勉強会は「砂浜の活用を考える上での自然環境に関する理解」を深めるためである。自然の活用には無限の可能性があるが、「シーカヤック体験」は砂浜の自然を活用するための一つの実施事例である。



清掃活動には、延べ280名が参加した

達成できなかったこと

イベント1回当たり軽トラック10台分の漂着物の回収量は目標値が高すぎた。イベントを実施した夏季の漂着物の量が、それほど多くなかったことが原因。他の地域団体との協働を思うように進められなかった。

今後の展望

現在は、参加料無料としているが、今後は、参加料制を導入したり、団体に予算化を促す必要がある。

成果と工夫したポイント



成果

7回の学習イベントを実施、延べ280名の参加があり、活動への理解が得られた。漂着物の回収により、合計軽トラック7台分(90リットルゴミ袋×60袋)の砂浜のゴミが減少した。7,100世帯に活動が認知された。

工夫

清掃活動を実施するだけでなく、活用を促すために、周辺の自然の勉強会とシーカヤックを実施した。